

昭和天皇即位 盛大に祝う

ドイツ人 哲学者 カルシュが撮った写真



人であふれる松江市中心部の通り。奉祝ののぼりが見える（若松秀俊さん提供）



警行列で山車を引き回す人たち（若松秀俊さん提供）

にぎわう松江 40枚見つかる

昭和天皇の即位に伴う1928年の「御大典」を記念した、宮行列でにぎわう松江市中心部の写真が見つかった。通りが人々でこった返す中、奉祝と書かれたのぼりや日の丸の旗が揺れる。天皇陛下が即位を宣言する「即位礼正殿の儀」が10月22日に控え、注目されそうだ。（陰山篤志）

文豪・小泉八雲に並ぶ足跡を松江に残したと評されるドイツ人哲学者フリッツ・カルシュ（1893〜1971年）が、1928年11月頃に撮影した。カルシュは25年から14年間、松江で暮らして旧制松江高校（現島根大）で教壇に立ち、雲南市出身の医師永井隆博士や、「暮しの手帖」を創刊した花森安治氏らを教えた。カメラを愛し、松江や大山の写真撮った。カルシュ研究の第一人者で、カルシュに関する著書「四ツ手網の記憶」がある若松秀俊東京医科歯科大名誉教授（72）が、白黒写真約40枚を保管していた。写真は、宮行列が行われた北堀町などの様子を伝える。多くの日の丸が掲げられ、花輪のようなものが通りに据えられている。警行列も同時期に開催し、山車を引く男性らの姿が見える。写真を収めたアルバムの中には「テンノウ ハイカ

30キ。目指し熱戦 全米」ゴルフに50人



勝田康則奥出雲町長（右）から優賞品の仁多米30キを贈られる吉田幸さん

「初めの一本」防いで

子どもへの指導法学ぶ

たばこから守る研修会



子どもの喫煙防止策などを学ぶ研修会がこのほど、松江市乃白町の市保健福祉総合センターで開かれ、医師や薬剤師、市内事業所の人

バンザイ」とカルシュの書き込みがあった。若松さんは「行列の際に日本人が口にした言葉が印象に残って記したのではないかと推測する。若松さんは「カルシュが松江のさまざまな表情を撮

影したことを、広く知ほしい」と願う。依頼れば、松江などでの講演をしたいという。アドレス wakamatsu@tmd.ac.jp